

ラリーオビディエンス I について

◆出陳犬について

出陳犬は、クラブ会員が所有する生後9カ月1日以上の本会登録犬（アペンディクス登録犬を含む）並びに非公認犬種、非公認団体登録犬、交雑犬とします。

◆カテゴリーについて

出陳犬の体高により、次の2つのカテゴリーに分割して競技を行います。

- ①スモール・ミディアム・・・体高43cm未満の犬
- ②ラージ・・・・・・・・・・体高43cm以上の犬

◆指導手について

指導手は、本会のクラブ会員並びにその家族とします。

◆実施要領

(基本規程)

- ①指導手は、競技前にステーションの番号とパネルに書いてある服従の課題課目を順に覚えます。
- ②指導手は犬を脚側につけ、番号順にパネルの左側または、パネルの前で犬とコミュニケーションをとりながら課目をこなします。
- ③コミュニケーションをとるため、競技中に課題が出来たことに対して犬を褒める、励ます言葉は許されます。ただし、体罰や厳しい指示（言い方）は禁止となります。
- ④指導手は、紐付きで行うか、紐なしで行うかを決めることができます。
- ⑤コースの途中におやつをあげても良い箇所、少し触っても構わない箇所が1～3箇所あります。ただし、ニコニコマークのあるパネル、及びゴール後とします。
- ⑥おやつは、ずっと手に持ったままでなく犬の反対側のポケット(ポーチ・エプロン等は禁止とする)に入れることとします。
- ⑦おやつは、その都度ポケットから取り出し、左右どちらかの手を使って与えることとします。なお、指導手は自身の口におやつを含むことは不可とします。
- ⑧指示は、声符・視符・体符同時であれば使用できます。
- ⑨競技中、犬に触れてはならないが、偶然当たることは許されます。
- ⑩指導手は、自然に腕や手を振り、犬を自然に扱うこととする。不自然な動きは、審査員から注意が与えられます。2回目の注意で失格となります。
- ⑪紐の持ち方は、片手でも両手でもよいこととします。
- ⑫紐を競技中に持ち変えることができます。
- ⑬リング内には、犬を紐付きで出入りします。
- ⑭紐なしで競技を行う際には、リードを肩（左右どちらでも良い）にかけるか、ポケットに入れます。

(参加条件)

- ①障害のある犬でも、体調が良ければ参加可能です。
- ②指導手に障害がある場合でも、参加可能です。ただし、障害の状態を申告しなければなりません。車イス（手動・自動）、杖等で参加できます。
- ③妊娠犬、病気がケガ、目で見える犬の病気（下痢、嘔吐、足をひきずっている等）の時は、参加できません。
- ④発情犬は、最後の出陳となります。
- ⑤他の犬や、人の安全を脅かす攻撃的な犬は、参加できません。
- ⑥出陳犬のスパイク、口輪、胴輪、服は禁止となります。
- ⑦チョークチェーンは締まらないようにしてください。
- ⑧金属のリードや、伸びるリードは禁止となります。

(コース)

コースは、担当審査員が設計します。
パネルの数は、13～18個の他、スタートパネルとゴールパネルを使用します。
パネルは、次頁(1)～(8)の中から選ばれます。

(コース検分)

- ①競技開始前に、コースが設置されたリング内に指導手のみを入れて、検分を行います。
- ②検分時間は10分以内とします。
- ③検分中に指導手が分からない時は、審査員に質問ができます。
- ④障害のある指導手及び18歳未満の指導手は、ヘルパーと一緒に検分ができます。
- ⑤競技者が20名以上の場合、検分を分ける場合があります。
- ⑥複数の犬を出陳する指導手の検分は、1回とします。

(スタート)

- ①審査員の指示で、指導手は常歩でスタートをし、指導手の判断で最後まで行います。
- ②審査員のスタート指示後、15秒以内にスタートラインを越えないと失格となります。
- ③指導手の足、または犬の前足どちらか早い方の足がスタートラインを越えた時から、タイムが計測されます。スタートする前は、停座、伏臥、立止のいずれかとなります。

(ゴール)

- ①指導手の足、または犬の後足どちらか遅い方の足がゴールラインを越えると、ゴールとなります。
- ②ゴールを越してタイムが止まった後は、よく褒めてください。
- ③競技が終わったら、速やかにリンクを出ることとします。














(リミットタイム)

- ①リミットタイムは、原則として4分となります。
- ②障害のある指導手及び18歳未満の指導手のリミットタイムは5分となります。
- ③審査員はコースの距離等により、リミットタイムを加算することができます。
- ④リミットタイムを越えた場合は、失格となります。

◆重複出陳

- ①ラリーオビディエンスに出陳する本会登録犬（アペンディクス登録犬を含む）は、特別犬の部を除く、全ての部のうちから1つのクラスに重複出陳することができます。
- ②ラリーオビディエンスに出陳する非公認犬種、非公認団体登録犬、交雑犬は、準初等科・特別犬の部・オビディエンスビギナーⅠ・オビディエンスビギナーⅡのうちから1つのクラスに重複出陳することができます。

	<p>スタート 審査員の指示でスタートする。 スタートする前は座らなくてもよく、基本姿勢は必要ない。 スタートの線を越してタイムを計ります。</p>		<p>ゴール ゴールを越してタイムが止まった後は、犬をほめる。</p>
	<p>(1)右回り及び脚側停座 指導手の右から後ろに回り脚側停座させる。</p>		<p>(2)左回り及び脚側停座 指導手の左から回り脚側停座させる。</p>
	<p>(3)右回り及び前進 指導手の右から後ろに回り、そのまま前進して、次の課目に向かう。</p>		<p>(4)左回り及び前進 指導手の左から回り、そのまま前進して、次の課目に向かう。</p>
	<p>(5)脚側停座 パネルの左側の作業エリア内で脚側停座させる。なお、指示なし停座、指示あり停座のどちらでもよい。</p>		<p>(6)脚側停座及び伏臥 パネル左側の作業エリア内で、脚側停座後に伏臥を命じる。伏臥からは停座させずに、次の課目に向かう。</p>
	<p>(7)脚側停座、伏臥及び脚側停座 パネル左側の作業エリア内で、脚側停座後に伏臥を命じ、続けて停座を命じ、次の課目に向かう。</p>		<p>(8)脚側停座及び犬周回 (左回り) パネル左側の作業エリア内で脚側停座させる。指導手は左回りで犬を一周して、犬の右側で止まる。指導手と犬は、少しの間静止した後次に次の課目に向かう。指導手は、犬の周りを回る時に待てを命じても良いが、動きながらの指示は減点となる。</p>
	<p>(9)脚側停座、伏臥及び犬周回 (左回り) パネル左側の作業エリア内で脚側停座させる。停座後に伏臥を命じ、指導手は左回りで犬を一周して、犬の右側で止まる。指導手と犬は、少しの間静止した後に次の課目に向かう。指導手は、犬の周りを回る時に待てを命じても良いが、動きながらの指示は減点となる。</p>		<p>(10)右折 パネル前側の作業エリア内で、右に曲がる。</p>
	<p>(11)左折 パネル前側の作業エリア内で、左に曲がる。</p>		<p>(12)回れ右 パネル前側の作業エリア内で、回れ右をする。指導手と犬は、そのまま止まらず180度回った後に次の課目に向かう。</p>
	<p>(13)回れ左 パネル前側の作業エリア内で、回れ左をする。指導手と犬は、そのまま止まらず180度回った後に次の課目に向かう。</p>		<p>(14)反転ターン パネル前側の作業エリア内で、反転ターンをする。犬の足は、作業エリアから少し出ても良い。</p>
	<p>(15)270度右回り パネル前側の作業エリア内で、270度右回りをする。犬の足は、作業エリアから少し出ても良い。</p>		<p>(16)270度左回り パネル前側の作業エリア内で、270度左回りをする。犬の足は、作業エリアから少し出ても良い。</p>

	<p>(17)360度右回り パネル左側の作業エリア内で、360度右回りをする。犬の足は、作業エリアから少し出ても良い。</p>		<p>(18)正面停座 脚側行進中に、パネル左側の作業エリア内で正面停座させる。正面停座する時に指導手は、4歩まで下がっても良い。ただし、横に動く、止まってから再度動くことは減点となる。 当課目は、(1)~(4)のいずれか1つの課目と組み合わせて使用される。</p>
	<p>(19)緩歩 パネル左側通過時から緩歩を行う。指導手と犬は、はっきりと歩度の違いが分かるように行うこととし、次の課目に行くまで緩歩し続ける。</p>		<p>(20)速歩 パネル左側通過時から速歩を行う。指導手と犬は、はっきりと歩度の違いが分かるように行うこととし、次の課目に行くまで速歩し続ける。</p>
	<p>(21)常歩 パネル左側通過時から常歩を行う。指導手と犬は、はっきりと歩度の違いが分かるように行うこととし、次の課目に行くまで常歩し続ける。</p>		<p>(22)螺旋 (右回り) 指導手と犬は、犬を外側にして約150cm間隔で配置された3つのコーンを、螺旋状に右回り(時計回り)をする。最も遠いコーンから回ることとし、最後のコーンを回ったら、次の課目に向かう。</p>
	<p>(23)螺旋 (左回り) 指導手と犬は、犬を外側にして約150cm間隔で配置された3つのコーンを、螺旋状に左回り(反時計回り)をする。最も遠いコーンから回ることとし、最後のコーンを回ったら、次の課目に向かう。</p>		<p>(24)スラローム (片道) 約150cm間隔で配置された4つのコーンを、指導手と犬は、最初のコーンを犬の左肩から入り、スラロームを行う。なお、やり直しは認められない。</p>
	<p>(25)スラローム (往復) 約150cm間隔で配置された4つのコーンを、指導手と犬は、最初のコーンを犬の左肩から入り、スラロームを往復して行う。なお、やり直しは認められない。</p>		<p>(26)8の字 (誘惑なし) 指導手と犬は、何も入っていない給餌容器4つの間を、8の字で通過する。8の字の最後は、最初に入った方向とは、反対方向に出ていき、止まらずに次の課目に向かう。なお、やり直しは認められない。</p>
	<p>(27)指導手周回 パネル左側の作業エリア内で脚側停座後に、犬は右回りでハンドラーの周りを回り、脚側停座する。脚側停座後は、次の課目に向かう。</p>		<p>(28)1歩前進 パネル左側の作業エリア内で脚側停座後に、指導手は犬とともに1歩前進して、脚側停座させる。脚側停座後は、次の課目に向かう。</p>
	<p>(29)正面停座及び1歩後退 脚側行進中、パネル左側の作業エリア内で正面停座を命じる。その際に、指導手は4歩まで下がることができる。正面停座後、指導手と犬は1歩後退して再び正面停座を命じる。この時に、指導手と犬は作業エリアから出ても良い。当課目は、(1)~(4)のいずれか一つの課目と組み合わせて使用される。</p>		<p>(30)螺旋回り (犬外側) 約150cm間隔で配置された3つのコーンの周りを、犬は指導手の外側で螺旋右回り(時計回り)をする。最も近いコーンから回ることとし、最後のコーンを回ったら、次の課目に向かう。</p>
	<p>(31)螺旋回り (犬内側) 約150cm間隔で配置された3つのコーンの周りを、犬は指導手の内側で螺旋左回り(反時計回り)をする。最も近いコーンから回ることとし、最後のコーンを回ったら、次の課目に向かう。</p>		